

K町における小児生活習慣病予防健診に関わって

(財)宮崎県健康づくり協会

鬼塚美帆 江川千鶴子 川越由美子 長友朋子 福永清美 黒原久美子 河野美千代
四位貴子 浜田恵亮

1. はじめに

生活習慣の変化により、子供たちに肥満や2型糖尿病、高脂血症(脂質異常症)、高血圧などの発症が増えてきている。こうした状況から昭和62年に小学4年生、中学1年生、高校1年生の希望者を対象に全国(28都道府県)で小児生活習慣病予防健診が開始された。当協会でも、平成3年から平成19年まで、県内の約5万人の児童・生徒に対し、小児生活習慣病予防健診を実施してきた。

今回は、平成14年度から平成18年度の5年間継続して実施した、K町の小児生活習慣病予防健診について報告する。

2. 対象と実施方法

(1) 対象

調査対象は小学4年生618名と中学1年生670名の計1288名である。なお、平成14年度調査分は判定方法の変更のため今回の報告から除外し、また受診者数が少なかった高校1年生も除外した。

(2) 健診項目

肥満度(身体計測値から算出)、血圧測定(初回測定で基準値以上だった児童・生徒は再測定)、血液検査(総コレステロール、HDLコレステロール)、調査票(糖尿病既往歴と家族歴)

(3) 総合判定

(財)予防医学事業中央会が定めた小児生活習慣病予防健診判定基準を用いた。

3. 健診結果

(1) 総合判定区分(図1)

1) 小学4年生

要医学的管理は男子2.5%、女子2.0%、要経過観察は男子8.7%、女子6.8%、要生活指導は男子9.6%、女子7.8%、管理不要は男子49.4%、女子56.8%、正常は男子29.8%、女子26.7%であった。

2) 中学1年生

要医学的管理は男子1.8%、女子2.4%、要経過観察は男子7.5%、女子7.2%、要生活指導は男子6.6%、女子6.9%、管理不要は男子58.8%、女子58.5%、正常は男子25.4%、女子25.1%であった。中学校男子は、小学校男子に比べて管理不要の割合が増加し、要生活指導以上の割合が減少している。

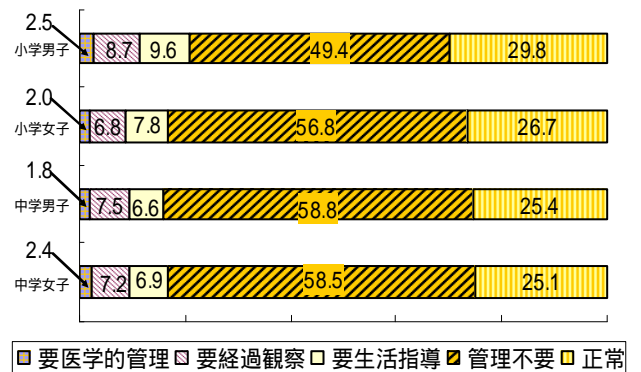


図1. 総合判定区分

(2) 項目別判定(図2)

1) 小学4年生

肥満

肥満度20%以上の男子は19.6%であり、女子の13.5%に比べ高かった。

肥満区分(図3)では、軽度肥満は男子46%、女子47%、中等度肥満は男子43%、

女子40%、高度肥満は男子11%、女子13%であった。やせは男子1.0%、女子1.1%であった。

血清脂質

血清脂質の値に異常傾向がみられたのは男子2.8%、女子3.4%であった。

血圧

軽度高血圧以上は男子0%、女子0.34%であった。

2) 中学1年生

肥満

肥満度20%以上の男子は15.2%、女子は13.4%であった。肥満区分では、軽度肥満は、男子41%、女子48%、中等度肥満は、男子47%、女子36%、高度肥満は男子12%、女子16%であり、肥満の割合は男子が高いが、肥満区分別に見て高度肥満になると、女子の割合が高くなった。やせは男子0.9%、女子4.9%であり、女子のやせの割合が高かった。

血清脂質

血清脂質の値に異常傾向のあったのは男子0.9%、女子3.3%であった。男子は小学生より割合が低くなっている。

血圧

軽度高血圧以上は男子0.3%、女子0.9%であった。

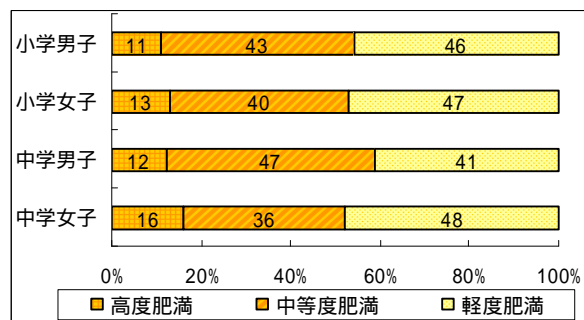


図3. 肥満区分

4. 考察

小児の肥満は年々増加し、児童生徒の10人に1人は肥満傾向児である¹⁾と報告されているが、K町でも同じ傾向を認めた。一方では、痩身傾向児を少なからず認め、健康教育上の問題を提起していると考えられた。

小児生活習慣病予防健診の結果返却後に、要生活指導以上であった児童・生徒を対象に、子供のみならず親も含めて生活改善のきっかけを与えられるよう個別指導を兼ねた結果説明会を開き、運動や保健指導、生活習慣病に関する講話を行った。また、一部の学校で、PTAに対して健診前に小児生活習慣病に関する説明会を開いたが、この説明会は受診率向上につながったと考えられた。

生活習慣病の予備群が子供に増えているという現状から、今後は両親を含めた各関係機関と連携し、健診前後に説明会等を行い、小児生活習慣病への関心や認識を高めていく必要がある。

5. まとめ

児童・生徒の5人に1人が何らかの生活習慣病対策が必要とされる現状では、子供たち全員に生活習慣病の怖さと正しい生活習慣を身につけることの大切さを知ってもらうことが大切である。そのためにも小児生活習慣病予防健診の必要性は大きく、生活習慣病のリスクをもつ子供たちに対しては正しい生活習慣の指導も必要である。今後一層、関係機関と協力し、健診の充実に努めていきたい。

(参考文献)

1) 文部科学省：学校保健統計調査，2007

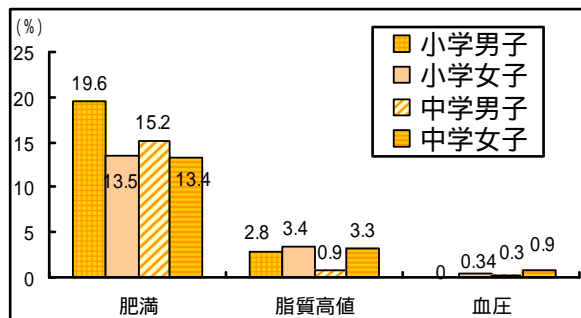


図2. 項目別判定